

■■■ 韓国スタディーツアー2011に参加して ■■■

2011年9月15日～18日の3日間、KFCの韓国スタディーツアーに参加しました。昨年はソウルへの研修でしたが、今年は釜山(プサン)にある団体を訪問しました。今回の研修の目的は、韓国の多文化人権教育の現状と問題を知ることでした。

3日間の限られた時間の中で3つの団体を訪問し、そこで活動されているスタッフの方々からとても貴重な話を聞くことができました。

まず、1日目午後に訪問した「盤松多文化地域児童センター」は、CLC(Christian Life Community)が運営している事業所です。CLCは2000年にNGO団体となり、釜山には2007年に設立されました。現在、児童数は8家族13名、活動を支援している登録会員数は約170名です。

活動としては学習指導、生活指導、保護者指導、文化活動、情緒・心理活動等などがあります。生活指導としては、災害・事故、誘拐の防止、性暴力、薬物の教育指導が行われており地域児童センターの必須項目ともなっています。

これらの活動を支えているのは行政と市・区からの支援金です。また、約170名の登録会員が月1000円～1万円単位で寄付を行っており、その寄付も貴重な活動資金となっています。

2日目午前には、NPO法人「移住民と共に」付設多文化人権教育センターを訪問した。このセンターは2009年度より社会法人となり、結婚移住者の支援や移住労働者の支援を行っています。また、その他に日曜日には一般診療が受けられ、看護学校の研修生や薬剤師がローテーションで診察を行っています。一般診療室の隣には、歯科診療が2席設けられており、一般診療も歯科診療も無料で受けることができます。

ここではセンター長のチョン・チョンスさんに、団体の活動内容の説明を聞くとともに、現在の韓国が抱えている多文化社会の問題点について、チョンさんの経験を通して様々な面から貴重なお話を聞くことができました。

2日目午後には、多文化二世たちのオルタネイティブ・スクール「アジア共同体学校」を訪問しました。この学校は2006年に開校した教育庁認可のフリースクールで、現在54名12か国の児童が在籍しています。2006年開校当時の児童数は11名であったので、5年で約5倍に増えています。学費は無料、給食費は実費であり、月間予算の40万円は教育庁と地域からの寄付によって賄われています。小学生クラスから高校生クラスまであり、年齢が高く韓国語や韓国文化の教育が不十分な人のための特別クラスもあります。

教育内容としては、韓国の一般教育に英語・日本語・中国語・ロシア語のうち1言語を学び、20年後には、この学校を出た子どもたちが2か国語+aの言語が話せるようにという目的をもったプログラムになっています。また、その他の教育として音楽や体育、クラブ活動などもあり、私たちが訪問した際は子どもたちが広い運動場でボランティアの方と楽しそうに野球をしていました。日本語が少しできるという生徒がいたので、簡単に日本語で挨拶をしたら、「こんにちは！」と元気な声で挨拶を返してくれ、その時の笑顔が印象的でした。

校内の設備は、各言語の本が置かれている図書室、音楽室、化学室、食堂、おしゃれなカフェ、大型のテレビなどが完備されており、古い建物ではありますが、思ったより充実した環境のように感じました。

ここで活動されているスタッフの方々は、2010年まではボランティアで活動されていましたが、今年度より交通費は出るようになったそうです。

今回3つの団体を訪問し感じたことは、それぞれの団体での活動内容や教育内容は違うものの、共通して見えてきた大きな問題は、現在韓国が抱える多文化社会に対する対応の遅れです。釜山では現在多文化家庭が1337家族で、2020年には3人に1人が多文化家庭の子どもとなると予想されています。

このような流れの背景には韓国の国際結婚の急増があり、1990年代から農村地での結婚できないことを悲観した青年の自殺が増え始め、自治体が国際結婚の推進に力を入れ出したことから始まります。結婚できない事による自殺の理由としては、血縁関係を重視する韓国社会において、血を絶やすことは親不孝であると考えられているからです。ところが、国際結婚の仲介業者がビジネスとして活動を始めた結果、人身売買のような形で外国人女性が渡韓し、夫の暴力などで命を落とすという悲惨な事件も起きており、社会問題となっています。

国際結婚で韓国に住む全ての人が、そのような状況におかれているわけではないですが、現在の韓国社会において多文化問題は目の前に迫っている大きな社会問題に変わりはないようです。韓国政府の対応の遅れと同時に、多文化に対する国民の認識・理解がまだまだ追いついていない点も問題です。

しかしその中で多文化家庭の子どもはどんどん成長し、韓国社会の中に入っていきます。そんな厳しい状況の中で、何とかして今の韓国の現状を打破していこうとする情熱溢れる方々に今回の研修の中でたくさんお会いでき、私自身も日本語を通してできる多文化教育はないだろうか考える貴重な体験となりました。 (松本 茜)

9月15～18日に釜山にある多文化家庭の子どもをサポートしている団体を3か所訪問しました。

どの団体もスタッフや先生方が一丸となって活動されているのを拝見し、多文化家庭への支援はとても充実しているように見えたが、さまざまな問題点が残っているのも現状です。韓国社会の問題点と各団体の取り組みについて報告いたします。

韓国では国際結婚の割合が増加したことをきっかけに多文化家庭の子どもが増加しています。

国際結婚が増えた社会的な背景として、農村地区に住む男性が結婚できずに自殺する人が増えたため、自治体ではその対応策を考えなければいけませんでした。そこで政府は補助金を出し、言語の問題がない中国吉林省などに住む朝鮮族の女性との結婚を勧めるようになりました。

そのような流れを受けて韓国国内では、国際結婚を仲介する業者が増え「初婚・再婚・障害者歓迎！料金は後払い！絶対に逃げません」というスローガンを掲げるほどになりました。しかし、中には精神疾患で40回ほど入退院を繰り返した男性の家族が国際結婚を依頼しており、その男性と結婚した女性が殺害されるなど、DVなどの被害も多くベトナムやカンボジアでは韓国との国際結婚を国として規制しました。このようなことから次第に人身売買ではないのかという見方をされるようになりました。しかし現在もバスの車内に国際結婚を勧める業者の広告が出ているのが現状です。

また国際結婚した配偶者には韓国語教育・韓国文化教育があり、韓国社会に適応できるようにしていますが、実際には韓国人女性もしないような味噌づくりなどを外国人配偶者に教えていることもあり、外国人としての個人的尊重はあまりなく、ある中国人配偶者は「私を中国から来た嫁ではなく、古い良き時代の韓国人の嫁にしようとしている」と言ったそうです。配偶者の方々にとって韓国社会に適応する教育を受けるよりも、永住権や国籍の保障のほうが重要だとセンターの方はおっしゃっていました。

また、多文化家庭の子どもは貧困で勉強ができないというイメージがあったり、韓国人夫婦の貧困層からは多文化家庭世帯よりも貧しいのに多文化家庭世帯の支援ばかりしているという反発

が起こったりと韓国社会では今もさまざまな問題点や改善策が必要になっています。このような中で多文化家庭の子どもに対して一日目に訪れた盤松多文化地域児童センターでは、読書や俳句づくりを通して言語能力の向上を目指しています。その他にも、文化体験(演劇・映画・キャンプなど)・ヨガ・園芸・ビーズ・石鹸づくり・母親の国の文化を理解するための多文化教育なども行っています。また近くにある大学の先生を講師として招いたり、K T(韓国通信会社)や郵便局などとも連携しているそうです。そして学校相談システムを設け、福祉施設や学校の担任の先生と年に2回は話し合うようにされています。子どもの状況を見て必要と判断された場合はそれ以上に機会を設けるようにしています。多文化家庭の認識を改善したいと考えているためです。このセンターでは子ども達を支援するためには月に60万円は必要になります。運営資金は政府負担が35万円で寄付が25万円となっており寄付金については会員約170人が1000~10000円の範囲で寄付をしてくれています。一方、政府からの支援金は「地域児童センター規定金」という制度があり政府が決めた基準が3段階に分かれておりその基準を満たせば支給されます。

3段階の内容

1段階 常勤1人 子ども10人

支給金額18万円(月額)

2段階 常勤2人 子ども11~20人

35万円(月額)

3段階 常勤3人 子ども21人以上 50~55万円(月額)

このように政府からの支援金や寄付金によって、子ども達はセンターに給食費やおやつ代なども含め無料で通うことができます。

また2日目に訪れたアジア共同体学校では、韓国の普通科目と外国語(英語・ロシア語・中国語・日本語から一つを選択)・音楽・体育・クラブ活動などの授業を無料で行っています。外国語を選択制にしている理由は韓国語と子ども達の母語にプラスしてもう一つ言語を習得して将来に役立つスキルをつけることが狙いのようです。また音楽の授業では何か一つの楽器を習得させるようにしています。そのほか、食堂や図書室・化学室・音楽室などの設備も整っています。図書室には学校に通う子ども達の母語で書かれている本があり、各国ごとにカラーテープを巻いて丁寧に管理されていました。そして、この学校で働く先生方や食堂のスタッフ、クラブ活動の顧問も含めボランティアで活動されています。また、寄付金を提供してくれる方や電気工事や内装工事などの技術が無償で提供してくれる方がいらっしゃいます。

どの団体もスタッフの方々が一丸となって多文化家庭の支援に取り組まれていました。そして、その団体を支えている地域の方々との連携があつてこそ子ども達が安心して通うことができると感じました。(中野 みゆき)

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆グループレッスン担当を始めて

今年の5月から毎週月・木曜日に初級グループBの学習支援を担当させていただいております。

一昨年冬、ハローワーク職業訓練「日本語教師養成講座」を受講修了はしたものの特に日本語教師を目指すわけでもなく、なんとなくぼんやりと日常生活を送っていました。でも、受けた訓練を活用しないんだらうか…とちょっと良心的?にうじうじ考えていたところを、KFCでボランティア学習支援をしておられるHさんの紹介で、まずは申込からおそろおそろ面接に出かけたところが、1か月のアシスタントを経ていきなりグループレッスン担当を拝命してしまいました。不安一杯でしたが、断ることは逃げることで、重い腰を上げた甲斐が無いと自分に言

い聞かせて、させていただくことにしました。

℃ 二では、初め2カ月ほどは「みんなの日本語」で「文型積み上げ型」を粛々とやっていたのですが、生活学習者にとっては退屈で苦痛な授業であったと思います。少しずつですが自分なりの工夫を試みてはいますがはてさて学習者の方々はまるで私の実験台のようです。毎回、申し訳ない気持ちでいっぱいです。「タスク積み上げ型」をどしどし取り入れ活用させて学習者と和気あいあいと楽しく学べるようになりた〜い…など夢のまた夢ですが。（20年早いぞ！！）何とかなるかしらん？

グループレッスンでは少人数であれ学習者のニーズや進捗度は各人さまさまなので、それらを汲み取って授業に反映させることも実力不足の私にとっては大変な悩みのタネです。

≠ですがともあれ、継続は力（になるんでしょうかそのうちに?!）とか。学習者の皆さんとっても優しく、授業前の雑談も近ごろではけっこう活発になってきました。余計なおしゃべりは楽しいです。ある日、Pさんのノートの日付の横に「さいせんせい」と書いてあるのを見つけました。ドキリとしました。「そう…なんだ……。」私には、学習者の皆さんに寄り添うことしか出来ませんが、自戒と精進をしみじみ思いました。

（蔡 優子）

◆日本語ボランティア講座（初心者コース）を受講して

9月10日から10月29日までの毎週土曜日に開催された「日本語ボランティア講座（初心者コース）」を受講しました。受講の動機は養成講座を修了して約1年半の間に4人の学習者の方々と共に活動してきましたが、本当に今の活動方法でよいのか疑問に思うようになり、今の活動方法以外の手法を勉強したいと考えたからでした。

講義の流れはまず、日本語ボランティアとしての心構えを教えてくださいました。具体的には、①いろいろな目的により日本で生活する外国人が増えていることに伴い、生活するための日本語を学習したい人が増加している。②学習者のニーズ（どのような環境で使うか、会話、文字、文法か）を把握すること。③国語教育と日本語教育の違いを認識し（我々が当たり前のように使っている日本語）、学習者にいかに理解してもらうか（時には理屈抜きで覚えなさい!）④日本語ボランティア活動とは学習者に日本語を教えるのではなく、学習のための支援（サポート）すること（日本語支援ボランティア）であるべき等々でした。

次は、模擬授業の実習です。学習者の条件として初級前半のレベルと仮定した学習支援方法の講義です。今回の模擬授業実習は受講者を6グループ（4・5名の）に分けました。そしてグループ毎に授業準備の教案作りです。模擬授業は「みんなの日本語初級」の第5課、第13課でした。各課についてそれぞれ2グループが作成した教案に沿って模擬授業を実施、担当以外の全グループ員が観察者という設定です。模擬授業後受講者全員で各グループの「良かった点、良くなかったと思われる点」について討議をし、最後に斎藤先生の講評をいただきました。模擬授業は独学では体験出来ないことで、貴重な経験ができたと思います。また最終回の講義で斎藤先生が「今回の講習は（特に模擬授業については）は支援活動に対する心構えと支援者自身の自己研鑽方法（予習・準備）である」とおっしゃったことが印象に残りました。ほぼ全員の方が修了書を手に入れ、お疲れ様でした。また、高橋先生、金理事長及びKFCのスタッフの方々のご支援に感謝致します。ありがとうございました。以上 （鈴木 讓二）

◆10月研修会「語彙学習について」

10月の研修会は、講師AOTS（海外技術者研修協会）の日本語教育センター長、神吉宇一先生の「語彙学習について」でした。

日本語の語彙の特徴は、数は約70万語、通常、大人で4, 5万語使っている。

日本語能力試験一級で約1万語が必要。

他の言語に比べて数が多く、学習範囲が広いので難しいと思われている。

難しいのは類義語、同音異義語が多いこと。外国人にとって、擬音語、擬態語、カタカナ語はむづかしい。が、これら全てを「覚えてください」ではなく、指導者のほうがコントロールするのが良い。

語彙ができれば意思疎通が出来るので必要な語彙は覚えなければならない。

新しい語彙の学習ポイントは、書き方、意味、文法的特徴を知る。使い方を関連付けて覚え、関連語を増やしていく。

例文を作る。

定期的に復習、覚えたことを確認する。

教え方の基本は、

- ①母語の訳語を使う。
- ②実物、絵、動作などを使う。
- ③日本語で説明する。
- ④学習者の生活の中でよく使われているものを主に、必要なものを選んで出し ていく。

覚えた語彙も一週間くらいで忘れるので授業の後半で語彙を教え、家でおぼえて、次の週に使って話せる様にするのがよい。

できるだけシンプルに！

以上のような内容でした。

(ニュース係 谷先 晴代)

■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆KFCの子どもたちと関わって感じること

最近、MOIに学習に来ているある生徒に母語であるスペイン語を教えてもらうようになりました。スペイン語を教えて欲しいと言ったら、喜んで教えてくれました。楽しく会話ができると、一緒にする勉強もしやすくなる気がします。

MOIの活動に参加し始めたのは今年の春先からです。半年と少しくらい通ってきた中で感じたことは、MOIに来る子たちとの信頼関係は大切だなということです。MOIには、とても元気に振る舞ったり、無口であり自分のことを話さなかったりと、本当にいろいろな子が来ます。そうした子の一人ひとりと仲良くなれると、2時間ほどの時間を毎回楽しく過ごすことができます。もちろん勉強を教えるのが重要な役目なのですが、そうしたいろいろな子の一人ひとりが楽しく過ごせる環境を作るお手伝いをするのも大切なことだと思います。だから、MOIに来る子に勉強を教えるときには、まずその子と仲良くなることを心がけています。学校の生活はどうかとか、好きなマンガは何だとか、とっつきやすそうな話題を持ってきて、自分から話してくれるようにしています。仲良くなれたら、次回以降から、その話題について近況を報告してくれることもあります。(学校の好きな女の子と話ができたとか、部活の試合があったとか) そうしたことを話するときの彼らの表情は、とても柔らかいと思います。楽しそうです。まだまだな部分もありますが、勉強を教える子がだんだん僕に自分のことを話してくれるようになってきて、それを感じるたびに少し喜んでいきます。

勉強内容に関しては、本当に子どもによって個人差があって、日本語がまだあまり話せない子

も、日本の子どもと同じくらいの問題を解いている子もいます。だから、教える時には、その子の学習状況をできるだけ把握して、その子に合わせられるようにしています。また、どの子に教える時にも共通して気をつけているのは、無理に速いスピードで教えず、分かるまで説明して、分かったかどうか何度も確認することです。当たり前のことのように思えますが、いざ教え出すと、自分のペースになってしまったり、自分にとっては当たり前だということをちゃんと説明しなかったりしてしまうこともあり得ます。勉強を教えるのは、本当に難しいです。

また、勉強を教えるにあたっては、その子の学習進度だけでなく、その子の性格も考えなければいけないと思います。もし物静かで、分からないことがあっても言わずに終わってしまったりは、せっかく勉強に来ているのにもったいないです。そうした子がちゃんと質問できるためには、やはりその子がMOIに、僕に打ち解けて、リラックスした状態で勉強に臨めることが必要だと思います。

MOIでは子どもたちと信頼関係を作っていくように頑張っています。それは、彼らにMOIで楽しい時間を過ごしてもらうためと、勉強を少しでも進めてもらうためです。これからも、向き合う子どもたちに対して、どうしたらその子が打ち解けられるか、またどうしたらその子の勉強が進むかを、一人ひとり考えて、よりより学習支援を模索していきたいです。まだまだ至らない部分が多いですが、今後もよろしくお願いします。 (神戸大学 大石 貴之)

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆楽しい秋のバーベキュー

一年で一番過ごしやすい季節が訪れました。寒くもないし、暑くもない。10月10日この爽やかな日にKFC新長田中国帰国者交流会の主催で世界に一番長い吊橋明石海峡大橋と中国人が国父と呼んでいる日本に唯一の孫中山先生、孫文記念館の前の舞子公園に交流会結成以来第一回目のバーベキューを行いました。

今年の10月10日は、中国に縁のある人としては非常に意義深遠の日です。中国辛亥革命100周年記念日なのです。

この日中友好の絆になっている孫文記念館前と素晴らしい景色の舞子公園に中国残留邦人帰国者(49人)及び交流会のスタッフ(12人)が集まりました。楽しみにしていたバーベキューが予定の通りに午前11時に始まりました。

初めは太極拳の秋山先生と鶴田先生に太極拳を丁寧に熱心に教わって、温めた体が柔らかく軽く心も楽々となり、それから参加している人たちは感謝の気持ちを込めて話したり笑ったりお互い手伝いをして肉と野菜を焼きながら食べたり、飲んだりしました。笑顔を見詰めて皆さん本当の兄弟のように親戚や家族のように一家団欒している大家族です。大変感動しました。

だが、今世界中に戦争と貧困に纏わっている人たちの不幸、悲惨に暮らしていることを忘れるのはいけません。日本国内でも東日本大震災で街が無くなり、家も無くされて特に原発放射能に汚染、被爆された地区とそこの人たちがまだ普通の生活に戻っていません。東北地方の皆さんは正常な生活が早く回復するように頑張っています。

こんな美しい大自然、素晴らしい景色の地上に平和で生活をしているのはどんなに幸せか。戦争の残酷さや災害の悲惨さと平和、民主の尊さを熱き思いを胸に深く刻まなければならない。

中国残留邦人帰国者たちは十分堪能して楽しく嬉しい一日でした。 (澤 政道)

(辛亥革命：1911年10月10日南昌起義至2011年10月10日100周年です)

■■■ ハナの会 ■■■

◆今回も、私たちが元気をいただきました！

9月23日に敬老会にてハナの会を訪問させていただきました、ハナの会への訪問は久々で、初めて訪問させていただくメンバーを含め、前々からとても楽しみにしていました。何かハレモニたちに喜んでいただけるような出し物を準備しようということで、今回は手品2つと以前にも披露した福笑い（金宣吉さんバージョンもあります）をさせていただきました。

当日参加したメンバーの中から、2名の感想を載せたいと思います。

当日、ハナの会でハレモニたちに会うやいなや、「姉ちゃん久しぶりやなー！」

「あ、私あの姉ちゃん知ってる！！」とたくさん声をかけていただきました。それだけではなく、私の祖母のご友人のハレモニから「おばあちゃん元気か？」と心配の声もかけてもらい、改めてハレモニにとってのネットワークの大切さを感じました。

準備していただいた食事を食べようとする、「ピピンパもっと混ぜ！」「これも入れたらおいしいねん」と食べ方指導があちこちから入り、食べる前から賑やかでした。

ハレモニたちの元気な姿を見られたこと、そしていつもと変わらず明るくユーモアたっぷりのハレモニたちから、また今回も私たちが元気をもらった気がします。

1年8カ月ぶりにハナの会を訪問させて頂きました。ハレモニ達はいつも元気で、毎回私たちも元気になって帰れているような気がします。今回私はあるハレモニに故郷の話を聞きました。そこは果物の名産品があり、日本よりもとても美味しいそうです。その話を笑顔で語るハレモニの表情は、生まれ育った故郷の景色を思い出しているようでした。ハレモニにとって故郷がどれだけ大切で恋しい場所なのか、少しは想像できたかなと思います。

また、私たちに叱咤激励をしてくれたハレモニもいました。人生の大先輩であるハレモニの言葉は、一つ一つがとても強く感じられます。

ハナの会を訪問することで、元気をもらったと同時に色々なことを学んでいます。次回訪問する時もハレモニ達ともっと交流を深め、一つでも多くのことを吸収していきたいと思っています。また出し物についてもよりパワーアップしたものをお見せできたらと思います！本当にありがとうございました。

ハナの会に行くと、毎回必ず自分のハレモニを思い出します。

もっと自分のハレモニを、家族を、友人を大切にしようと思わせてくれるハレモニたちに感謝しています。ありがとうございました。

(在日コリアン青年連合兵庫地方協議会 金知子、李玲淳)

■■■ 今後の予定 ■■■

■研修会

「在日外国人児童の読書の会」と「おはなし会」での読み聞かせについて

12月10日（土）13:30～15:30

小田原典子（神戸市立新長田図書館 館長）

於 アスタくにつか4番館東棟4F

■ **K F C支援者対象「日本語で住む！」～生活日本語を教える実践法講座**

12月17日（土） 10:00～15:30

於 K F C事務所

■ **日本語Pお弁当ミーティング**

11月30日（水） 12:00～ 於 K F C事務所

■ **「日本語で住む！」～生活日本語を教える実践法講座**

1月21日（土）～3月3日（土） 13:30～16:00

於 アスタくにつか4号館 3 F

■ **太極拳の発表会**

11月22日（火） 13:00～

於 地域人材支援センター

■ **年末年始のお休み**

12月30日（金）～1月3日（土）